

一般社団法人 全国OWS連盟 (NOWS) 新ルールについて

先日(6/21)静岡県焼津市で開催した「NOWS主催事業 静岡焼津お茶 OWS 大会2015」に於きまして、発生した事故を受け、当連盟では、改善策を含め、一部、ルールを変更させていただきます。参加者の皆様には、今後の事故防止対策として、ご理解頂き、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

(社) 全国OWS連盟

会 長 佐藤 孝尚

理事長 中村 康英

【競技の改善】

- ①当日のレース前の準備体操の実施 (全員参加)
- ②当日のレース前に入水して行うウォーミングアップの実施 (初参加者は、参加を義務付け)
- ③初参加者、高齢者(60歳以上)、年少者(中学生以下)には、専用(目立つ色)のスイミングキャップの着用を義務付ける。(茅ヶ崎大会は、黄色キャップ)
- ④上記(③)のキャップの選手には、以前より実施してきたライフガード体制に加え、折り返し点(付近)など、大会毎に決められたポイントで、ガードから声をかけて、意識の有無を確認し、応答がない場合には、ただちに救助する。
- ⑤制限時間内に完泳不可能と思われる選手は、審判の判断により、強制的に退水させる。

【健康面の改善】

- ①希望者に対する看護師または医師による問診・相談を実施する。
- ②希望者がいつでも測定できるように、自己測定用の血圧計・アルコールチェッカーを設置する。
- ③健康状態については、十分な注意が必要であることを、周知徹底し、少しでも不安があれば出場を辞退するよう促す。

【その他】

- ①救護専用テントの設置・・・本部テント以外にも救護専用テントを設置する。
また、横に長いコースの場合には、救護専用テントの設置個数を増減する。
- ②チーム監督制の導入・・・チーム責任者に所属選手の健康管理・準備運動などの管理を要請する。
- ③ホームページ等による周知・・・ホームページや大会案内などで、レースがリスクを伴うものであること、十分な準備をしても不測の事態が発生する可能性があること、少しでも不安のある場合には出場しない、あるいはレースを途中棄権する判断が大切であることを周知する。また競技前にも重ねて競技者に直接、注意喚起をする。

以 上